

# Osseodensification

デンサーバーを使用した大白歯中隔拡大プロトコル



Molar Septum  
Expansion Protocol

- 分岐部で大白歯の根を分離し、中隔の完全性を損なわないようにする
- パイロッドリルを時計回りに1MM深く、計画されたインプラントの長さよりも深く挿入する
- 骨の可塑性を高め、オステオトミーを拡大するために、デンサーバーを少量ずつ使用する
- インプラントは頂部レベルまたは頂部下レベルに配置すべき
- 必要に応じて骨移植材でギャップを埋める。理想的には70/30の海綿骨/皮質骨比の同種移植片を使用する

## ステップ1:

**分岐部で大白歯の根を分離し、中隔の完全性を損なわないようにします。** 外傷のない近心および遠心根の抜歯を行います。中隔部を露出させるために組織の肉芽除去を行います。



ステップ1:

## ステップ2:

1.3mmから1.5mmのパイロッドリルを時計回りに使用し、中隔の中心に計画されたインプラントの長さよりも1mm深く掘削します。



ステップ2:

## ステップ3:

インプラントの種類と直径に応じて、対応するインプラントシステムのドリルプロトコルに従い、最も小さいデンサーバーを使用して、計画されたインプラントの長さよりも1mm深く掘削します。デンサーバーを逆回転モードで使用します(逆回転、灌流を伴うドリル速度800-1500rpm)。**骨の可塑性を高め、オステオトミーを拡大するために、デンサーバーを少量ずつ使用します。** 例として、パイロット後にデンサーバー(2.0)を使用し、次にデンサーバー(2.3)、デンサーバー(2.5)、最終的にデンサーバー(3.0)を導入します。オッセオデンシフィケーションを伴うリッジ拡大の場合、オステオトミーを過度に拡大することができるため、最後のデンサーバーの直径は計画されたインプラントの主要直径よりもわずかに大きくなります。バーの直径が大きくなるにつれて、骨が拡大し、最終的なオステオトミー直径に達します。



ステップ3:

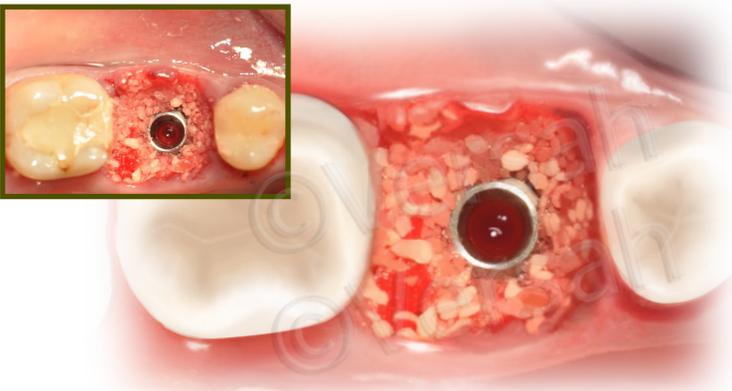
ステップ4:



ステップ4:

インプラントは頂部レベルまたは頂部下レベルに配置されるべきです (接続タイプによって異なります)。

ステップ5:



ステップ5:

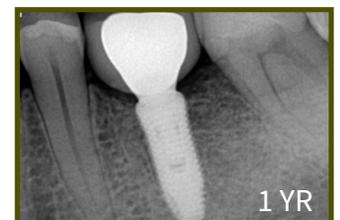
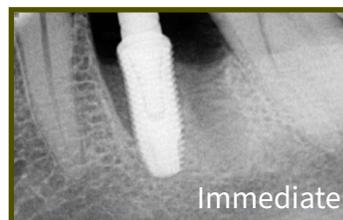
必要に応じて骨移植材でギャップを埋めます。理想的には、70/30の海綿骨/皮質骨比の同種移植片を使用します。バイオロジクスまたはコラーゲンプラグ、大きなヒーリングアバットメントを使用してギャップを封鎖し、場合によっては上に連続した縫合を行います。

ステップ6:



ステップ6:

埋入後6-8週間の治癒と軟組織の閉鎖を評価します。



提供者: Dr. Samvel Bleyan